



大きくなって帰ってきてね

まだ雪の残る3月3日、中津川で「さけの稚魚放流会」（綱取ダムの環境と清流を守る会主催）が開かれ、地域住民ら約120人が参加しました。この日は、卵からかえって約100日が経過した、体長5、6センチのサケの稚魚約2万匹を放流。参加した子どもたちは「いってらっしゃい」「元気に帰ってきてね」などと声を掛けながら、そっと川に流していました。

同会は、綱取ダムが整備された昭和57年に設立。ダムや中津川の清掃活動、不法投棄のパトロールなど、豊かな自然を守る活動を進めています。サケの稚魚放流は、会の設立から20年の節目に始められ、今年で17回目。同会の長岡康雄会長は「サケは生まれ育った川に戻る習性があるが、水がきれいじゃないと戻ってはこない。放流したサケが帰ってこられるよう、これからも川の自然環境を守っていきたい」と話し、放流した子どもたちを優しく見守っていました。放流したサケが戻ってくる約4年後には、成長した子どもたちが出迎えてくれることでしょうか。



◆主な内容◆ (平成30年4月1日号)

盛岡さくらまつり、旧暦のひなまつり、高松多目的広場一部オープン、市長コラムなど	2～3ページ
ミスさんさとチャグチャグ馬コ乗り手募集、市民農園の利用者募集、子ども科学館からのお知らせ	4～5ページ
30年度芸術鑑賞事業	6～7ページ
犬のしつけ、狂犬病予防注射日程	8～9ページ
盛岡ブランド推進事業を募集、ハンギングバスケット作り支援など	10ページ
突撃取材、今昔物語、連載コラム「地域おこし協力隊」など	11ページ
盛岡ライフストーリー	14ページ